令和５年３月22日
滑　　川　　市

東福寺野自然公園研修センター「青雲閣」の今後の方針について

１　「青雲閣」の今後の方針について

・研修センターの機能を令和６年３月31日をもって「廃止」する。
・施設については未耐震であり、耐震化には多額の費用がかかることから解体する。
・解体後は景観や眺望などの自然を生かし、東福寺野自然公園との一体性を持った機能について、令和５年度以降検討する。
・検討にあたっては、サウンディング型市場調査の実施、指定管理者である滑川市文化・スポーツ振興財団の意見も聴取し、公民連携手法の導入も含め検討する。

２　理由

青雲閣は昭和49年開館以来、50年近く経過しており、老朽化が著しいことや、未耐震であることが課題である。

利用者数は、平成29年をピーク(5,550人)に緩やかに減少していたが、コロナ禍において急激な減少(令和３年度で1,101人)となっている。運営経費に対する市の負担は、平成25年度から平成29年度までは1,600万円前後から2,000万円弱であったが、平成30年度以降は2,000万円を超えている。

令和４年度に実施した市民アンケートでは、青雲閣の存続について「存続すべき」が36%、「廃止すべき」が39%であった。「存続すべき」理由としては、「学校の宿泊学習など子どもに必要」「景観、自然がよいのであった方がよい」などが多かった。一方で、「廃止すべき」理由としては、「維持費がかかる。費用対効果が少ない」「少子高齢化等で集客が見込めない」「建物の老朽化」などが多かった。

今後維持していくための財源については、「民間の資金の活用」が39%と最も多かった。

また、令和４年度に実施した「青雲閣の活用に係るサウンディング型市場調査」では、「青雲閣単体で考えるよりも東福寺野自然公園と一体的な活用について検討すればよい」「未耐震の青雲閣は解体すべき」「来場者を幅広く受け入れるには、対象を絞らず柔軟性があればよい」などの意見があった。